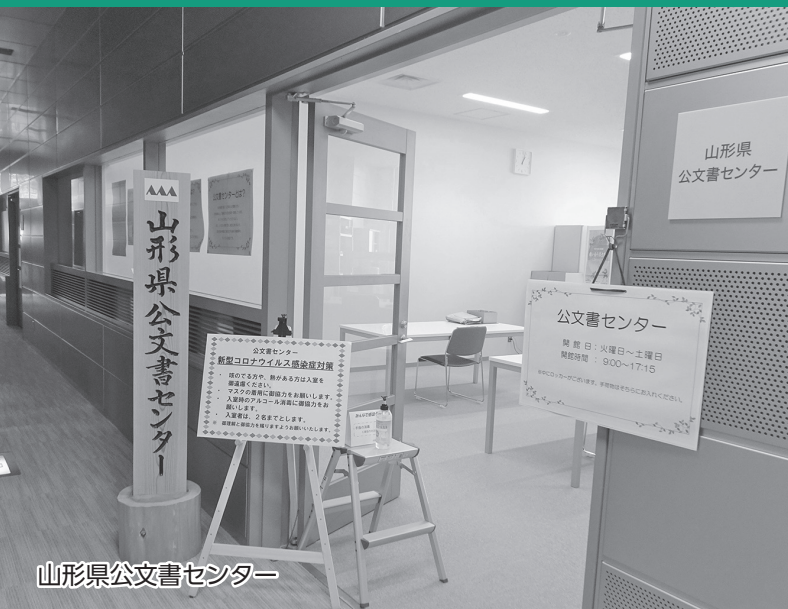


生涯学習やまがた



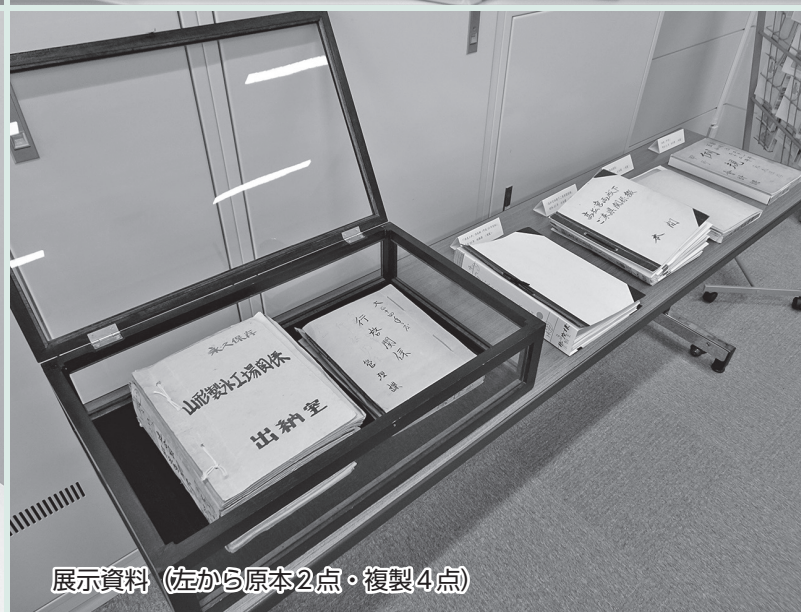
山形県公文書センター



デジタル化作業



特定歴史公文書の補修作業



展示資料 (左から原本2点・複製4点)

CONTENTS

2 特集

これからの未来世代のための、
これからの博物館・美術館あるいは文化活動
—世代間倫理の重要性— (芳賀 満 氏)

5 博物館・美術館の取り組みを紹介します

米沢市上杉博物館・鶴岡アートフォーラム

6 コロナに負けない！～地域の取り組みを紹介します～

「地方創生まちづくり人財養成講座」米沢市

8 Information

高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業・第7回洗心庵写真コンテスト・
青少年地域学習活動支援事業【二次募集】のご案内・地域学交流集会

— 遊学館の新たな仲間たち — 山形県公文書センター

2月にリニューアルした遊学館。新たに「山形県公文書センター」、「大学コンソーシアムやまがた」、「カフェレストラン BLU遊学館」が仲間に加わりました。今号より3施設をご紹介します。

今回ご紹介するのは「山形県公文書センター」。保存期間が満了した県の公文書のうち、歴史資料として重要なものを特定歴史公文書として保存・管理しています。一番古い特定歴史公文書は明治22年とのこと。多くの方に利用していただけるように、また、より良い状態で長く後世に残せるよう、良好な保存環境に努めながら、資料の補修やデジタル化作業（デジタル情報として記録保存すること）を行っています。

社会教育施設としての博物館・美術館。「観る」から「参加」(学習)の場へと変化しています。未来世代のための博物館・美術館の役割とは?そして文化は地域発展の道標となるのか。国際的な視点も含め、芳賀満氏より寄稿していただきました。

「これからの未来世代のための、 これからの博物館・美術館あるいは文化活動 ―世代間倫理の重要性―」

東北大学教授 芳賀^{はが}満^{みつる}氏

博物館の定義を問う 「民主化を進める空間」?

博物館の国際組織である国際博物館会議 (ICOM) の世界大会が2019年に京都の「Museums as Cultural Hubs: the Future of Tradition (文化をつなぐミュージアム―伝統を未来へ―)」のテーマで開催され、そこで博物館の定義の改訂が激しく議論された^{※1}。

現行定義は以下である。「博物館とは、社会とその発展に貢献するため、有形、無形の人類の遺産とその環境を、教育、研究、楽しみを目的として収集、保存、調査研究、普及、展示する公衆に開かれた非営利の常設機関である。」真つ当、悪く言えば現状追認の定義である。これに対し新定義案は以下である。長文の前半のみを示す。重点とインパクトを示す語順と意図的選択の語の訳

は原文に極力従う。「博物館は、民主化を進める (democratising)、包摂的 (inclusive) で、多声的な (polyphonic) 空間 (space) である、過去と未来について (about the pasts and the futures) の批判的な対話 (critical dialogue) の為の。現在の闘争と挑戦の事実を認め対処しつつ、博物館は、社会のために委託された人工物と標本を保持し、多様な記憶 (diverse memories) を未来世代の為に保護し、そして全ての人々に遺産に対する平等な権利と平等なアクセスを保証する。」私見だが、いきなり「博物館は、民主化を進める」とは性急な正義の暴力である。正義の反義はまた別の正義だ。アメリカの正義の下に武器支援を受けソ連と戦う「ビン・ラディン」、「アラブの春」等、己のその場での性急な正義をかざした乱暴な政策こそが各地で

戦争とテロを生んだ。政治や経済と異なり、文化は静かに重いのがその基底の特長で、だからこそ毎日浮わつき乱高下する政治や経済などよりも強い。「記憶」とあるのは「第一次史料」を保全し根拠とする客観的学問的方法論に外れる。「多声的な空間」等意味不明で、曖昧な言葉遣いは到底「定義」ではない。そして現行定義にある「教育」、「常設機関」、「無形遺産」、「楽しみ」の概念の消滅は看過できない。

これは定義ではなくミッション・ステートメントの一つである。10年以上も前から米・英・豪・加・北欧で主流である一つの理想の博物館観である。しかし理念を定義としようとするのは、欧米からのみ成るのではない諸国家の多様な価値観、歴史、宗教、政治・社会体制を考慮せず、理想を語る贅沢が許されない国があることを知らない。完全無知ならまだしも、おそらく浅い知見はあるが故に却って自分の唯一神を強く説く、西洋中心主義の宣教師的な傲慢さがある。

博物館あるいは文化施設の 近年の大転換―社会総がかり

定義としては相応しくないが、一方で博物館に関わる理想の一つとしては正しい。博物館は、戦争・紛争、環境破壊・気候変動、多文化共生、民族間

題、移民、貧困、犯罪、ジェンダー、LGBTQ等の現代社会で顕在化する諸課題に積極的に関与すべきとする考えである。

従来博物館とは、厳めしいその建築を思えば瞭然だが、帝国主義の国威発揚装置で、殖産興業等の旗のもと宗主国に都合の良い「国史」を展示する場で、支配の為の一方通行的な権力装置であった。東洋では博物館は西洋の帝国が造ったものであった、日本以外の場合は。ひとりよく帝国日本は明治5

芳賀 満氏 プロフィール



東北大学高度教養教育・学生支援機構教授、総長特別補佐 (共同参画担当)、男女共同参画推進センター副センター長、学習支援センター長。日本学術会議連携会員 (博物館・美術館の組織運営に関する分科会副委員長)。ICOM京都大会運営委員会委員。日本ユネスコ国内委員会委員、「世界の記憶」選考委員会副委員長。ユネスコ「世界の記憶」アジア・太平洋地域 (MOWCAP) 委員会執行部副議長。

専門はユーラシア大陸考古学。古代ギリシア・ローマから中央ユーラシア・インドの考古学、特にギリシア・ローマ画像の東方への伝播とそれらの仏教美術の中への選択的吸引、およびギリシア・ローマ美術との関係における仏像の起源を研究。

年以來の東京国立博物館の歴史を持ち、この西洋帝国主義装置をよく理解・受容し、それを満州国国立中央博物館^{※2}では宗主国として「正しく」実現した。

しかし近年博物館は有形のみならず無形の文化財の継承をも契機とする双方向の交流の場となりつつある。「資料中心」から「来館者重視」へ、「観る」(見学し教育を受ける)から「参加」(学習)へ、つまり生涯にわたり自主的に楽しく学習する場へと転換している。さらに博物館運営への積極的「参画」へ。そしてその個々の博物館を「ハブ」として我々は世界へと連携し展開してゆく。博物館は、評価の定まったお宝を集めそれを人々が崇めに詣る「神殿」「結果」から、未知との遭遇により議論が始まる場である「広場」「プロセス」へと変貌を遂げている^{※3}。博物館にあるのは、そこに身体を運ぶ、あるいはヴァーチャルにアクセスする、全ての我々が「社会総がかり」(改正文化財保護法)で創ってゆく未来である。

たしかに予算を割く施政者は、橋下徹大阪府知事の如くに、文化施設の対費用効果、つまり税収増、消費拡大、雇用創出効果を見極める責任ある立場にある。文化には地域発展の推進力があるのか。博物館の立場からOECDとICOMが共同作成した『文化と地域発

展…最大限の成果を求めて―地方政府、コミュニティ、ミュージアム向けガイド』がその効果を示し説く^{※4}。博物館こそが、経済発展、都市再生、コミュニティ開発、創造的社会的創出、健康・幸福の達成、地域開発のドライバー(原動力)であり、そこから創造性、文化の多様性、地域経済の活性化、社会的結束、市民の社会参画、健康・幸福が生まれるのである。行政資金、民間資金を引き出す「稼げる文化」の根拠である。

上記『ガイド』で「博物館の、先端的な役割を市民社会に於いて果たしそのコレクションを幅広い観客と共有したいとの欲望」からの「野望に満ちた前例のない」事例とされるのは、ルーヴル美術館が刑務所当局と受刑者と共に刑務所で開催したルーヴル美術館名作複製展覧会「壁を超えて」である。

実はこれは先端的だが異端的ではなく、「いはんや悪人をや」の誓願である。誤解なきよう確認すれば「悪人」とは衆生凡夫我々全員である時、そこにこそ及ぶのが本願である。故に特に社会から孤立した人々、ホームレス、高齢者、障がい者、情報弱者等々へこそ、他の社会機関と連携しつつ衆生を救わんと長く手を差伸べるのが阿弥陀仏という「女神」の館ミュージアムの根拠で正因である。やっと2015年

に国連もSDGsを定めその基本理念として「誰も置き去りにされない」とした。故に例えばフィンランド国立アテネウム美術館は「幸福感を高める美術館」を目指し、特に高齢者へ向けて(株)大日本印刷等とプロジェクトを行う^{※5}。"Museums Change Lives"^{※6}とあり、命・生き方・社会・世界を変革するものが博物館等の文化施設なのである。

世代間倫理の機関としての博物館あるいは文化施設 〜民主主義の致命的欠陥を補う

但し、現在世代の世界ではなく、未来世代の世界をこそ起点としなければならない。

ここに、「保存」と均衡を取りつつと附帯決議を示しながらも、「活用」を強く押し出す改正文化財保護法の危惧点がある。上記新定義案においても、「民主化」を唯一神の如く掲げた後の「過去と未来についての批判的な対話」との一節は、ロバート・ロウカーの有名な歴史学の定義「過去と現在との間の終わりのない対話」を当然意識するが、似て全く異なる概念である。新定義案では「現在」は「過去」「未来」と対話をしない。あくまで過去と未来「について(about)」、「現在」の人々の間で「批判的な対話」をするだけである。「現在」のみが現場で、特権的な立場

にある。しかし本来博物館は、単に過去を未来に無事届ける「管理者(custodian)」^{※7}、「仲保者」との謙虚で慎ましい存在である筈だ。博物館は所蔵品の特権的・最終的所有者でも活用者でもない。自分を活かし同時に他者を活かす「地の塩」であるのがその勇気だ。

通常、倫理は「世代内倫理」で、同時代の人間関係を律する行動規範で、共時的、双務的で、交換としての契約である。しかし博物館を律するは「世代間倫理」^{※8}である。通時的で故に一方的で見返りなく片務的である。過去から現在へ渡されたから、現在から未来へ渡す贈与であるが、未来から現在への返礼はあり得ない。だが逆に、アメリカ先住民の「大地は子孫が貸してくれたもの」との哲学を踏まえ、野家氏は現在世代が大地を未来世代から贈与されていると考えるべきで、それを保全し良好な状態で未来世代に渡すことは現在世代の返礼義務に他ならないと言う。大地とは文化財のことでもあり、その返礼義務を果たす為の機関が博物館である。博物館とは世代間倫理を全うする為に時間軸上に造られた四次元機関なのである。過去世代と未来世代を繋ぐ世代間のハブであることこそが博物館の最重要任務である。

ここにこそ民主主義の致命的欠陥が

ある。未生の未来世代は現在投票できない。現在の多数決による民主的決定は、現在の正義や公正を未来世代に問答無用で拡張し負担を強いる。特にトランス・サイエンス時代、リスク社会に伴う環境破壊や福島原発事故を、天に向かつて罪を犯せばその罪は必ず身に及ぶこと（『民数記』32・23）を、もう忘れていいのか。民主主義は世代間倫理と一部利益相反する。従来ステークホルダーとして国家、中央・地方行政府、民間企業、寺社、市民、所蔵者等が挙げられるが、未来世代こそが最重要ステークホルダーなのである^{※9}。

本来全ての現在の思考、決断、政策は未来世代を起点として決定されねばならない。それこそが世界の持続可能性を生む。ならば生涯に渡る学びは、その自己の生涯のみで終わらず、未来の他者の生涯へとつながる。

我々は未来の他者に世代間倫理義務を負う。カントは「他者を手段としてのみならず、同時に目的として扱え」（『道徳形而上学原論』）と言う。現在

世代の民主的合意による現在の幸福の享受により、もしも未来の他者に我々のツケをまわしたら、未来の他者を「手段」としてのみ扱うことになる。同時に「目的」としても扱わねばならない。観光マインドに則り文化資本を「活用」し観光「手段」として稼ぐこ

と自体は良い。同時に文化資本を「保存」し未来の他者を「目的」として扱えば良いのだ。産業振興、観光等の営利行為を「手段」として遂行し公民共に稼ぎ繁栄・存続し、未来への世代間倫理義務という「目的」を果たそう。

世界の未来世代のための山形の文化財総合計画「大綱」 「こんにやくを煮込むしあわせ」

では山形の現在世代は、同世代そして未来世代の世界の人々へと何を伝えれば良いのか。まさに様々な経験値、専門知が集まる生涯学習センター等が総がかりで考えるべきことだ。

「一所」懸命に考えるべきである。

山形という一所の歴史文化的特長を最大限に発揮することが世界と未来の為になる。山形は自然と歴史が豊かで、傑出人物を輩出し、食文化濃く、温泉湧き、観光盛んだ。しかし山形は京都、東京でもパリ、ニュー・ヨークでもなく、中心でも最先端でもない。マクドナルドの店が日本で一番遅かった県（モスクワよりも遅かった）だそうだが、さもありなん。

しかしそれ「が」「で」ではない）良いのである。「暑き日を海にいらたり最上川」（芭蕉）はそのような背景から生まれた^{※10}。日本列島の大半の風土・景観が古来、カタログ化され高密度に

マクドナルド的にシステム化された。

その歌枕という詩的約束事の伝統は日本詩人の重要な遺産であるが重圧・束縛ともなり、それから逃れんと歌枕支配の希薄な奥羽に旅し、古代の詩心を蘇らせ解放する試みが『おくのほそ道』の旅であった。陳腐の典型の松島でなく、芭蕉が初めて真に海に出会ったのが庄内だ。そこで「ただ『暑き日』と『海』と『最上川』とがそれぞれ獣のようにもんどり打って相撃つ、古代アニミズム的ともいべき光景」が生まれ出た。「古代アニミズム」との評価軸を建て山形をブランド化するべきである。舟形の「縄文の女神」も賛同を叫ぶであろう。

私事だが私の父、祖父母は山形出身で、私は毎年寒河江と山形市小荷駄町の親戚の家に長い夏休みや冬、弟と共に預けられて過ごした。オモエおばちゃんの養鶏場を手伝い、持たせてくれたお握りとしょぱい茄子漬を手にした歳山に登った。朝、芳賀菓子店の店先から三ツ矢サイダーを持って行き寒河江川の川辺に埋め、背中を日焼けしながら夢中で箱眼鏡でカジカを突き、昼、冷えたサイダーを飲み焼いた魚を食べる旨さ。「夏河を越すうれしさよ手に草履」（蕪村）とは、父に手を取って貫いた寒河江川を踏み渡る時、足裏に渦巻く水の気持ち良さである。私の桃

源郷は山形にある。

それがいいのではないか。結局古来求めていた桃源郷は今既に目の前にあるのではないか。しかし人間中心のSociety 5.0を目指すのだそうだ。生物か非生物かも判らぬウィルスにさえ翻弄されているのに、未だに人間中心か！ 国際的に見て日本、特に山形の特長は、自然とその一部としての人間が古来共生する環境である。安っぽいバージョン・アップにも反対！ 今さらバージョン・アップとはかえって古い。ことさらに世代間倫理と言うまでもなく、これまでのように文化を未来に向けて逆にゆっくり煮込んでこそ、平和が海山川と人間社会の隅々まで染み渡る。アニミズムのこんにやくをゆつくりと煮込むしあわせ。バージョン・アップとばかりにカラシを少しだけ付け、千歳山のこんにやくはだから旨い。

※1. 松田陽「ICOM博物館定義の再考」、『別冊博物館研究』55,2020（夏）2020.22-26.

※2. 大出尚子「『満洲国』博物館事業の研究」、『汲古叢書』2014.

※3. D.F.Cameron「The Museum: A Temple or the Forum」,Journal of World History 14(1),189-202.

※4. 後藤和子「博物館の地域発展」,2020.41-45.

※5. www.museumlab.jp/ateneum/archive/

※6. https://www.museumassociation.org/museums-change-lives

※7. 吉田憲司「ICOM京都を振り返る」,2020.50.

※8. 野家啓一「『せやまの哲学』」,青土社2018.311-313.

※9. M.Haga Museums as hubs between generations or as an embodiment of Inter-Generational Ethics?ICMAH Conference,2019.

※10. 佐久間大輔「博物館は持続可能性を社会にもたせよう」,2020.27.

※11. 芳賀徹「詩の国詩人の国」,筑摩書房1997.203-207.

博物館・美術館の取り組みを紹介します

米沢市 | 米沢市上杉博物館 募集制ワークショップ

きみもチルドレンキュレーターズ 学芸員になろう！

■ 内容 ■

学芸員の大切な仕事の1つに『教育普及』があります。博物館の役割や仕事を身近にわかりやすく伝えるため、多くの市民



データベースに登録する資料の撮影や資料を薄葉(専用の紙)で包む練習の様子

に博物館を利用していただくためのきっかけづくりの事業です。さらにそれは、市民と一丸となって文化財を守っていく大きなきっかけにもなっています。

その1つとして立ち上げたことも学芸員の育成は、今年で16年目をむかえました。小学4年生から高校3年生までの子どもたちが学芸員の4つの根幹業務「展示」「調査・研究」「収集」「教育普及」から毎年テーマを絞り、現役の学芸員とともに体験するものです。

■ ここが大変 ■

子どもたちは学校での活動はもちろん、校外活動、習い事などで週末は多忙です。その中で年間12回全員が顔をそろえるのは不可能。情報を共有し1つの仕事をみんなで進めるためのサポートには苦心しています。

■ ここがうまくいった ■

継続して参加している子どもたちが多く、経験者が新人に指導して繋がっていくことが自然に生まれていることに、子どもたちのパワーを感じています。また、学芸員の修行をしていることに誇りが生まれ、自分の町に残されている資料などを大切にする意識が醸成されているのを感じます。

参加者
voice

小学4年生から活動してきました。米沢の文化に触れ多くの発見がありました。また、学芸員の方に教わりながらワークショップの運営ができるのも楽しいです。これからも継続して頑張ります。(13歳 中学1年男子/4年目)

鶴岡市 | 鶴岡アートフォーラム「個人制作のためのオープンアトリエ」

ゆったりと制作に取り組めるひととき

■ 内容 ■

個人や少人数グループの方々が作品制作を行えるように、毎月第2・4日曜日の午後にアトリエを開放しています。職員等の指導はありませんが、自由に時間と場所を使って制作できるようになっています。陶芸用の手ろくろや石膏像は各種用意しており、貸し出していますが、その他に必要な材料・道具類は各自で持参していただき制作を楽しんでいます。

また、学校に美術部がないという声を受け、中学生や高校生の利用も受け入れており、ゆったりと絵画や工



作などの創作活動に取り組むことができます。この時間は出入り自由。ご都合の良い時間に気軽にご利用いただいています。

■ ここが大変 ■

貸し出し用の道具類が少ないため、利用者には使用する材料・道具類を持参していただいています。一般開放の場所なので音が出る道具はご遠慮いただくなどの制限もありますが、ご理解いただき、円滑にご利用いただいています。

■ ここがうまくいった ■

アトリエ事業の一環である「美術講座」に参加した方が、作ることの楽しさを感じ、創作の場として利用し始めています。

また、様々な分野(陶芸・絵画・木工など)の方々が利用するので、互いが刺激を受け合い、このオープンアトリエをきっかけに、利用者同士の交流が増えているようです。

参加者
voice

何か作ったり絵を描いたりすることが生涯の趣味になればと思う。せめて自宅に作業場があったら…。いやいや、気分良く気軽に利用できるアトリエがある環境に感謝!! (50歳 男性)

地域の取り組みを紹介します

コロナに負けない！

新型コロナウイルスの影響により、さまざまな活動が制限される中、新たな手法に取り組む団体の活動を紹介します。コロナに負けない！学びのあり方とは!? 「地方創生まちづくり人財養成講座」（主催：まちづくり人財養成講座実行委員会、事務局：米沢市社会教育課）を取材しました。

Q1. オンライン講座を開催した経緯は？

コロナの影響で、対面での講座開催が難しいと考えはじめた時、Zoom^{※1}を使用したカンファレンス（大規模な集会）に同僚と参加する機会がありました。実際に会場に行っているような感覚で楽しく、ハードルが高いと思っていたオンライン講座も、体験したこと自分たちもできるという自信につながり、Zoomを使ったオンライン講座の準備をはじめました。上司の承諾を得て、各講師に提案。講師はオンラインでの授業や講座を経験済みだったので、すぐに了承いただきました。

Q2. 使うZoomについて教えて！

受講申込者が200人を超えたため、Zoomのプランに入っています^{※2}。毎回120名ほどの出席で、7割が米沢市民、3割が市外の受講者です。北海道から沖縄まで全国から、また台湾からの受講者もいます。一時、話題になったセキュリティに関しては、セキュリティ情報のマメなチェックとアップデートを心がけるとともに、受講者が会場のZoom meetings^{※3}に入るときに、IDの他、パスワードの入力で、関係者以外入れないようにしています。ID・パスワードも毎回変えています。

講座内容

地域おこし・まちづくりなどで活躍する豪華講師陣のもと、学びを活かして、自分のアイデアをどんどん形にできる人材の養成を目指しています。米沢を明るく元気なまちにしたい人、地域おこし・まちづくりに興味がある人など、市内外の方が参加可能！例年、伝国の杜を会場に開催していますが、今年度はオンライン会議アプリZoomを使い、オンライン講座として開催しました。

全6回講座終了後に開催予定の「まちづくり人財養成講座ワークショップ」も状況により、Zoomのブレイクアウトルーム（グループ分け機能）でトライ！

受講者Voice

他の受講者の感想をチャットを通してその場で知ることができるので、自分の考えを深めることにも繋がっています。講師と近い気持ちになれるところがオンラインの良さだと思います。
(米沢市 20代男性)

受講者Voice

自宅で受講できるので、くつろぎながら参加できるのもオンラインの魅力。いろんな先生のお話を聞くことができて為になっています。
(米沢市 40代女性)

日にち	講 師	内 容
第1回 5/14	谷中 修吾 氏	価値創造型超絶まちづくり～イノベーションが実践しているビジネスデザイン技法
第2回 5/21	中山ダイスケ 氏	ヒトとまちを元気にするコミュニティデザインの可能性
第3回 5/28	矢島 里佳 氏	日本の伝統を次世代へ～「和える」から学ぶ、自分の想いに気づきカタチにする方法
第4回 6/4	指出 一正 氏	「関係人口」から生まれるローカルのチカラ
第5回 6/11	田中 元子 氏	1階づくりはまちづくり～個人ではじめるマイパブリック妄想ワークショップ
第6回 6/18	阿部広太郎 氏	「I LOVE YOU」今のあなたなら何と訳す？ 伝えるではなく「伝わる言葉」の作り方

※1 パソコンやスマートフォンを使って、セミナーや会議をオンラインで開催するために開発されたアプリ。

※2 Zoomには参加人数や機能ごとにBasic（無料）、Pro（有料）、Business（有料）と様々なプランがあります。

※3 オンライン上の講座会場

ここが知りたい!



オンライン講座

●ここが上手かった!

コロナで学びの機会が減った状況下において、オンライン講座にしたことで、最初はわからないと尻ごみしていた高齢の受講者も、Zoomの使い方に慣れて、毎週楽しみにしてくれるようになりました。また、SNSに長けている受講者が全国各地から集まったことで、チャットでの交流や、SNS上で米沢をアピールしてくれることにも繋がっています。

●ここが大変!

通常の講座と違い事前のやりとりが必須なので、急な申込など当日受付が難しいですね。また、オンライン講座は意外と講師との距離感がとても近く感じられるので、受講者から講師にSNSで直接メッセージが届くこともあるようで、失礼のないよう事前に注意を促しています。

まとめ知識

Googleフォームを使うと、アンケート作成・回答・集計が簡単に! アンケートのひな型に質問項目や回答方法を設定するだけで作成でき、回答方法は選択式、記述式など選べます。回答や集計の簡略化に繋がるとともに、自動グラフ化やGoogleスプレッドシートによる一覧表の作成も可能です。

Q3. 講座開催の流れは?

事前準備

受講者

- ①事前申込
- ③アンケートに回答
- ④Zoomアプリをインストール
- ⑥Zoom事前講習会に参加

事務局

- ②受付し、アンケートと説明書を送付 (Zoom経験の有無など)
- ⑤Zoom事前講習会を開催 *check!*
- ⑦前日にミーティングIDとパスワードをメールで送る

check!

受講者はZoomを使ったことのない人がたくさん! Zoomの説明書を送付した後に、事前講習会でわかるまで手厚く指導!

5月28日(木) 講座を見学してきました!



講座当日、事務局は2名で運営しています。

事務局

米沢市教育委員会 社会教育課

主任/青木 千尋さん(右)

主事/樋口 風音さん(左)



講師とのリハーサル中の青木さん

18:00~ 講師とのリハーサル *check!*

check!

講師の動画やパワーポイントなどの動作確認まで入念にします。インターネット環境が悪いと、画面がフリーズしたり、音が飛んだりするので、講師側にも気をつけてもらっています。

18:50~ 受講者がZoom meetingsに集まり、一旦待機。事務局が参加者の承認をしていきます。 *check!*



受講者はこの画面からZoom meetingsに参加します。



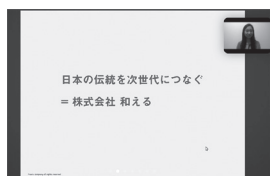
参加者の承認をする樋口さん

19:00~ 講座開始

講義の開始後、Zoom上の受講者の名前を参加者リストと照らし合わせて出席確認。そして、画面をONにしている受講者の様子を常時チェック。

check!

フルネームに氏名が変更されていない人には個別にチャットで話しかけ、フルネームに変更してもらい出席確認します。講義中は雑音が入らないよう受講者の音声は必ずOFFに!



パワーポイント資料



講師の矢島里佳さん

受講者の画面には、主に講師や資料が映ります。

20:20~ 事務局が参加者のチャットの質問を取りまとめ、質疑応答開始

20:30 終了

事後

講座アンケートはGoogleフォームで行い業務を効率化!

高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業 一般向け 関係者向け

高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を継続するため、高齢者の生きがいづくり・生活支援活動に参加する担い手を育成します！申込みは10月以降。詳細は後日、チラシやHPにてご確認ください！

■**支え合いを広げる地域づくりフォーラム**:定員100名
高齢社会の現状や活動の必要性について学ぶフォーラム
〈村山地区〉11月7日(土)遊学館(山形市)
〈庄内地区〉11月8日(日)庄内町第4公民館(庄内町)

■**支え合いの地域づくり担い手養成講座**:定員30名
活動を進めるための運営能力や企画立案能力を醸成する実践的な連続講座
11月26日(木)～令和3年2月2日(火)全5回

会 場 遊学館(山形市)ほか

■**生活支援活動ステップアップ講座**
(食事提供・移動支援):定員30名
活動で生じたニーズ等(移動支援や食事提供等)に対応できるように知識や技術を学ぶ研修

食事提供 12月18日(金)遊学館(山形市)
12月19日(土)庄内町余目第1公民館(庄内町)

移動支援 12月15日(火)南陽市えくぼプラザ(南陽市)
12月16日(水)新庄市ゆめりあ(新庄市)

青少年地域学習活動 関係者向け 支援事業【二次募集】のご案内

高校の課外活動として行われる地域学習や地域づくり活動を支援します！

対象事業 県内高等学校の課外活動(部活動など)のうち以下の学習活動
●生徒による自主的かつ先進的な地域学習や地域づくり活動
●生徒が地域と協働で行う地域学習や地域づくり活動

募集数 5事業

募集期間 8月4日(火)～9月8日(火)必着

事業実施期間 ～令和3年3月31日(水)

助成金額 助成の対象となる経費又は5万円のいずれか低い額

助成対象経費 謝金・旅費・賃借料・印刷製本費・消耗品費など

申込み 山形県生涯学習センター(下記)へ

編集後記

コロナの影響で学びや文化の場が突如として奪われ早数カ月。取材をきっかけにオンライン講座を受講し、先日数カ月ぶりに美術館に足を運びました。不安な時だからこそ、学びや文化は明日への活力になると改めて実感しました。今年度の広報紙では、地域活性化の原動力ともなる“文化”をキーワードに、生涯学習と文化について考えていきたいと思います。(R)

第7回 一般向け 洗心庵写真コンテスト

洗心庵では、園内で撮影した写真のコンテストを実施します。庭園の四季を切り取った、沢山の作品をお待ちしております。詳細は財団HPをご覧ください。



テーマ 洗心庵の春夏秋冬(白黒・カラーいずれも可)
部門 一般の部・U-18の部
作品形態 単写真のみ(組写真は不可)サイズはA4以上
募集期間 11月1日(日)～令和3年1月31日(日)必着
問合せ 洗心庵(下記)へ

地域学交流集会 一般向け 関係者向け

県内の「地域学」や「地域づくり」の実践団体、関心のある方々が集い、より一層充実した活動を展開するために学び合います。多様な世代や立場の方々、団体と出会い、たくさんの活動事例を学ぶチャンス！With/Afterコロナの地域学、地域づくりとは？詳細は後日、チラシやHPにてご確認ください！

日時 12月6日(日)
会場 遊学館(山形市緑町1-2-36)
講師 廣瀬隆人氏
(一社)とちぎ市民協働研究会代表理事)ほか

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 令和2年7月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36[遊学館]
TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp
URL <https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>

■開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

■休館日 第1・3・5月曜日、第3日曜日、年末年始

洗心庵[山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

■開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

🎁 読者プレゼント 🎁

「生涯学習やまがた」をご覧いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて、抽選で3名様へ遊学館ブックス最新刊『どっこい方言は生きている』(2月発売1,100円)をプレゼント！下記の山形県生涯学習センター広報紙担当あてに【①お名前・ご住所 ②入手場所 ③興味を持たれた記事 ④内容についての感想・ご意見・ご要望】を添えて、はがき・メール・FAXでご応募ください！締め切りは8月末です。